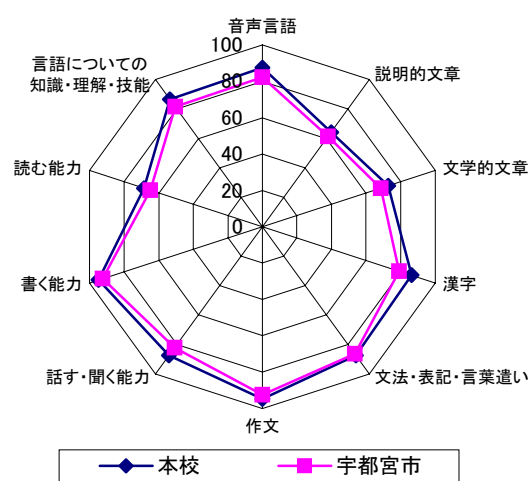


宇都宮市立上河内中学校第1学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	87.5	82.3
	説明的文章	64.3	61.3
	文学的文章	72.8	68.4
	漢字	86.3	79.1
	文法・表記・言葉遣い	87.5	86.5
	作文	94.7	92.5
観点別	話す・聞く能力	87.5	82.3
	書く能力	94.7	92.5
	読む能力	68.5	64.9
	言語についての知識・理解・技能	86.7	81.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (87.5%)	・リスニングの力は、日頃の授業で、真剣に指導者の話や友だちの発表を聞いてきた成果が出ていると思われる。	・話し合うとき、聞くと、話すとき、のそれぞれの切り替えをさらに早くできるよう指導を継続していきたい。
説明的文章 (64.3%)	・この分野は宇都宮市全体でも低い分野である。文章の構成と筆者の主張を的確に読み取るための訓練になる学習を、反復したり、他の文章で確認したりする習慣が少ないことが主因と考えられる。	・来年度は「一読総合法」を取り入れ、生徒が興味をもって文章を読み進められるよう工夫していきたい。 また、新聞などのコラムや社説を活用して、多くの興味深い文章に触れる機会を多くとりたい。
文学的文章 (72.8%)	・文学関係の読書が大変少なく、今年度は名著を読むように促したが、言葉遣いの「古さ」により敬遠された面があった。読み聞かせも計画的にしている。	・有名作家が著した本を読むことや国語の読み取りをするために、客観的に登場人物の心情を読み取る「目」を養っていききたい。
漢字 (86.3%)	・日頃から、自主的に漢字の練習に取り組ませている。 漢字の字形の仕組みを学んだことが、漢字に関心をもつ動機付けとなったようである。	・来年度は、前年度の成果を踏まえて、視写学習の中から、「既習漢字以外も調べて読めるようになりたい」という気持ちをさらに育てていきたいと考えている。また、学校図書館教育とも連携をとり、推薦図書の紹介を継続していきたい。
文法・表記・言葉遣い (87.5%)	・授業の中で、全職員が生徒に適切な言葉遣いをしていることが、生徒の言語感覚をより豊かなものになっている成果が表れたと思われる。	・言葉の習得は一朝一夕でできることではない。間違った言葉遣いには、なぜそれが間違っているのかを思考させる習慣を身につけさせていきたい。
作文 (94.7%)	・本市で使われているスタンダードダイアリーを十分活用し、生徒が「書く」ことに抵抗を感じさせない工夫があったことも、今回の好成績につながったと思われる。	・今年度後半から行った視写学習を来年度も継続し、書くための基本を身につけさせたい。また、積極的に文章を書くように「意見文発表会」などを計画的に実施していきたい。